

## 第12期 社会教育委員の会議（第5回） 会議録

● 開催日時 令和元年10月25日（金） 午後2時～4時

● 会 場 702会議室

● 出席者

社会教育委員 （7人）

大島 英樹	野川 春夫
大畑 廣行	竹高 京子
長峰 政子	鈴木 弥生
熊谷 晴弘	

教育長 小花 高子

教育次長 安井 喜一郎

報告者 生涯スポーツ課長

南部 剛

事務局職員 （4人）

葛飾区教育委員会事務局参事, 生涯学習課長	加納 清幸
生涯学習課学び交流事業推進係長	伊藤 清美
生涯学習課学び交流事業推進係主査（社会教育主事）	与儀 睦美
生涯学習課学び交流事業推進係	宮田 耕一郎

オブザーバー 1人

生涯スポーツ課事業係長

張替 武雄

出席者 計15人

### 次第

#### 1 議事

- (1) 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について
  - ア 生涯スポーツ課
  - イ 生涯学習課
- (2) 今後の会議日程について
- (3) その他

#### 【配付資料】

- 第4回会議録（案）
- 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連資料  
（第4回会議にて既配布資料：【資料2】【資料3】，郷土と天文の博物館特別展「オリンピック・パラリンピックと葛飾」パンフレット，スペシャリストから学ぶ！かつしか区民大学 夏の特別講座チラシ）
- 第12期社会教育委員の会議スケジュール（案）【資料4】
- 「ゴールデン・スポーツイヤーを見据え、レガシーを考える」（『健康づくり』2019.10 No.498）
- 「2020に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－」東京都
- 社教連会報 No.85
- 関連事業チラシ（柴又どんたく、ヤングケアラー、乳幼児期のかかわり方、わがまち楽習会「災害時の区の対応」、忍者修行）

— 開会 —

○事務局 ただ今から、第5回の社会教育委員の会議を開始します。

塩澤委員から欠席、野川副議長から電車の遅延により遅参する旨の連絡をいただいております。

10月4日をもち塩沢雄一が教育長の任期を満了し、10月5日に小花高子が新教育長に就任いたしました。議事に入る前に、社会教育委員の皆様へ、新教育長からご挨拶をお願いします。

○教育長 皆様、こんにちは。今ご説明がありましたように、塩澤前教育長の後を受けまして、10月5日付で教育長に就任しております、小花でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

また、この12期の社会教育委員の皆様には、それぞれお忙しい中、委員をお引き受けいただき、ご協議いただいております。大変ありがとうございます。

令和3年3月までのご任期の中で本区の社会教育振興のためにさまざまご助言をいただくことになっております。今期のテーマは、『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会』を契機とした文化の創造と継承について』ということで、既に協議をお進めいただいていると伺っております。今期は、スポーツのみならず国際交流や青少年の育成、さまざまな分野に精通をしておられる方々をお願いしております。ぜひとも広い視野から、さまざまテーマについて深めていただければと考えております。皆様にもまとめていただく提言でございますが、今後の教育行政にしっかりと活かしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 これまで公務と重なり出席できなかった、安井教育次長が出席しております。

○教育次長 安井です。すみません、これまでたまたまですけども、議会と重なりまして出られませんでした。今日初めてご挨拶ということになってしまいました。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 よろしく申し上げます。教育長と教育次長は、ここで公務のために退席いたします。

(教育長・教育次長 退席)

○事務局 本日は傍聴者がいらっしゃいます。傍聴者は2名です。傍聴の方は入場してください。

(傍聴者入場)

○事務局 それでは、本日の資料などについて説明をします。

今回、机上に配付しているのは、第4回会議の議事録の案でございます。お忙しいところ恐縮ですが、11月8日までに修正点をお知らせいただければと思います。その前の第3回の議事録は、来週半ば頃に葛飾区公式サイトに確定版を掲載予定ですので、そちらをご覧くださいと思います。

前回配付いたしました生涯スポーツ課と生涯学習課のオリンピック・パラリンピック関連事業の関連の資料をお持ちでない方がいらっしゃいましたら、おっしゃっていただければと思います。

それから、資料4としまして、第12期社会教育委員の会議のスケジュールの案でございます。

次に、「ゴールデン・スポーツイヤーを見据え、レガシーを考える」という、『健康づくり』という冊子の中のコピーで、こちらは野川副議長からの提供の参考資料です。

また、こちらの東京都発行の「2020に向けた東京都の取組」ですが、12月の社会教育委員の会議のときに、東京都の職員に説明をしていただく予定ですので、お持ちいただければと思います。

その他、社協連会報の85号、また関連事業のチラシを机の上に置かせていただきました。

では、この後の進行は大島議長にお願いいたします。

## 1 議事

### (1) 葛飾区におけるオリンピック・パラリンピック関連事業について

#### ア 生涯スポーツ課

**○大島議長** 今日雨で大変ですが、台風でご苦労があったことと思います。僕も江戸川の反対側で心配をしていました。こちら側は垂直避難というようなことで、課題も多かったのではないかと思います。そんなことも、もしかすると、今回のテーマの中にも考慮するような内容になるかもしれません。今日いろいろとお話を聞ければなと思います。

前回、積み残しになって、ご準備いただいた皆様には申し訳なかったですが、生涯スポーツ課、生涯学習課のご報告を伺いたと思います。生涯スポーツ課長から、よろしくお願いたします。

**○生涯スポーツ課長** 生涯スポーツ課、南部からご報告いたします。こちらの資料をご覧ください。

まず、2ページの葛飾区後期実施計画、平成31年度から令和4年度までの4年間の計画で定めております。この中で「日頃から運動やスポーツをしているか」という設問、葛飾区政策・施策マーケティング調査の結果によるもので、70%を目標に取り組んでおります。その結果として、実績値が青のラインでございます。平成27年度をピークに、若干減少傾向にあります。原因については定かではありませんが、さらに一から取り組みを進めていく必要があると考えております。この61%の内訳の中で特徴的なのが、男性に比べて女性のほうが高いということです。年代でいきますと、70代以上が一番高く、次に60代。一方、低いのが20代で、働き盛りの世代が、スポーツに日ごろから取り組みにくいのだろうと捉えています。今後どうスポーツに興味を持っていただくのか、課題意識を持って取り組んでいかなくてはならないと考えています。

3ページです。赤字で「2022年度スポーツ実施率70%を目標」と、これは国の目標値は65%で、区の目標は国の目標より高いですが、できればこちらにも取り組んでいきたいと考えております。

後期実施計画の「スポーツによる元気なまちづくり」という中で、以下の4点を柱として取り組んでおります。高齢者の健康づくりの推進、障害者スポーツの推進、区民健康スポーツ参加促進事業、こちらは体育協会傘下、39団体があるところですが、スポーツの裾野を広げる事業、青少年向け、高齢者向けなどの初心者教室などを開いて、裾野を拡大しようという事業です。そして4点目、スポーツ施設の利用しやすい環境整備ということで、前回もクライミング施設の整備の話がございましたが、改修工事で利用しやすくしたり、維持したりしているところがございます。

4 ページ、「障害者スポーツの推進」でございます。具体的な取り組みといたしまして、ボッチャ、フロアホッケーの普及です。ボッチャは、パラリンピックの競技種目です。フロアホッケーは、スペシャルオリンピックス、知的障害者の大会での競技です。それとトランポリン競技の普及でございます。そして4点目が指導員です。障害者スポーツの指導員の育成・活用を行って、障害のある方もない方も一緒に楽しめるユニバーサルスポーツの普及に取り組んでいるところです。

5 ページです。葛飾区スポーツ推進委員会を中心に、ボッチャの普及に取り組んできました。その結果、昨年9月に葛飾区ボッチャ協会を設立するに至り、ボッチャ協会がさまざまな大会や教室に取り組んでおります。具体的な取り組みとして、障害の有無にかかわらず参加できる大会を設け、今年度は105人の参加をいただきました。それ以外にボッチャ教室を年間5回開催、他に現在は、水元総合スポーツセンターの会議室を活用し、週1回のペースで一般開放を行っております。

**○鈴木委員** ボッチャとはどんな競技でしたか。名前だけは知っています。

**○生涯スポーツ課長** 白いボールと、6個の青、赤のボールがあります。赤と青のボールをそれぞれのチーム、あるいは個人で持ちます。赤いボールを持つ人が白いボールを投げ、その白いボールがターゲットになります。赤いボール、青いボールの順に投げ、白いボールに遠いほうから投げていく競技です。当然、近くに寄せる面白味があるのと、赤、青のボールを投げた際に、ターゲットである白のボールに当たるとターゲットが動いてしまい、急に形勢が逆転してしまうことも面白味の一つとしてあります。パラリンピックでは、車椅子の方の競技がメインですが、障害の有無にかかわらず楽しめるスポーツですので、皆さん喜んで実施していただいております。

**○鈴木委員** ありがとうございます。

**○生涯スポーツ課長** 6 ページです。フロアホッケーは、スペシャルオリンピックスの正式種目です。東京都フロアホッケー連盟が区内を中心に活動しており、その関係で、フロアホッケーの全国大会や東京都大会を奥戸の総合スポーツセンターで開催しております。来年1月から週1回開放して、ここに来れば、フロアホッケーを楽しめる開放事業も行っています。

7 ページのトランポリン競技の普及です。障害者トランポリン教室を月2回、水元総合スポーツセンターと奥戸のエイトホールで実施しております。トランポリン交流大会ですが、障害のある方とない方でカテゴリー分けはしますが、ともに楽しんでもらうという大会を開催しております。障害者と健常者が一緒の場でやる大会というのがないものですので、こういう大会を通じて、障害のあるなし、垣根を取っ払っていきたくと取り組んでいるところでございます。また、オール水元スポーツクラブが中心となり、近隣の葛美中学校の特別支援学級の生徒さんを対象にトランポリンの教室を行っております。私も見学しましたが、知的障害のある方が、体を動かすというのが難しい中であっても、非常に楽しそうに、結構上手にされていました。その後にありますオール水元スポーツクラブのプログラムとしてトランポリンに取り組んでいるところですが、葛美中でやってから、このプログラムにも参加するようになったという方もいらっしゃいました。

8 ページ、障害者スポーツ指導員の養成・活用でございます。日本障がい者スポーツ協会が初級の指導者講習会を毎年開催しております。現在115名の登録があります。活動内容として、区の障害者スポーツ教室で、例えば水泳教室、ボッチャ教室などで活動をしていただいております。

9 ページ、「区民健康スポーツ参加促進事業」です。先ほど申し上げました体育協会加盟団体が、初心者教室などの競技の裾野を広げる事業を展開しております。今年度は29の事業を実施しており、数年後には、全39団体に活動をしていただいて、スポーツの裾野を広げてまいりたいと進めております。

10 ページ、「スポーツ施設の利用しやすい環境整備」でございます。メーンはスポーツクライミング施設の新設です。前回話がありましたが、来年3月を竣工予定として、整備を進めております。オリンピックまでの期間は、オリンピックの練習会場、あるいは大規模大会で空いたところで教室等を実施して、スポーツクライミングの競技人口の拡大を図っていくのと、終了後は一般の方への開放をしていきます。教室を開催して利用者を拡大していく、国内外の大規模大会を誘致して施設の知名度を上げ、あそこに行けばクライミングが楽しめるのだというような施設になれば、と考えております。そうすれば競技も拡大し、利用者も増えていくのかなと考えています。

11 ページにイメージ図がございます。ボルダリングとクライミングとスピードが1か所に整備されているところは、23区ではございません。青梅に仮施設がつくられますがオリンピック終了後に解体してしまいますので、この3施設があるのは23区でも葛飾区だけですし、近隣でもなかなかない施設でございます。スポーツクライミングの聖地のようなところになればと考えております。

12 ページです。こちらも前回、話していたかと思いますが、トップアスリートの支援事業でございます。オリンピック・パラリンピックを目指している選手を応援する取組で、区民がスポーツに取り組み、自身の健康づくりを考える契機となるよう進めていくものです。13 ページに記載しておりますが、現在、15名のアスリートを認定して、応援しております。支援事業の内容は、14 ページに記載のとおり、活動助成として上限20万円、パラリンピック競技で介助が必要な方については、別途15万円を限度に補助を行っております。こちらのアスリートにつきまして、大会情報を集め、大会があるときにはホームページ等で周知して、応援を図っています。また、区のスポーツイベント等で、区民との交流を図っています。

15 ページ、松元克央選手です。今年の世界水泳において日本記録で銀メダルを獲得しました。世界水泳が行われます、ぜひ応援しましょう、とアピールし、銀メダル獲得を周知して応援しています。8月23日に区に表敬訪問に来られまして、区長と一緒に撮った写真でございます。16 ページ、やはりトップアスリートの支援事業ですが、西村佳奈美選手、区のジュニアテニス教室で指導いただいております。13 ページに戻りますが、パラリンピックのアーチェリーの大橋選手、大山選手には、レッツ！チャレンジスポーツでアーチェリーと一緒にやっていただいたりもしております。

17 ページです。「2020大会の機運醸成イベント」ということで、6月22、23日にレッツ！チャレンジスポーツを実施いたしました。さまざまなスポーツやブラインドサッカーの体験教室、ボッチャの交流大会を実施するとともに、1年後のオリンピックを盛り上げるため、トップアスリートのトークショー、カウントダウンセレモニーなどを実施しました。1,760人に参加いただきました。

18 ページ、ブラインドサッカーの日本代表の事前キャンプ地として葛飾区が選ばれました。

19 ページにまいりますと、事前キャンプ地、練習会場の誘致ということで、男女の12か国、合計24チームのバレーボール練習会場として水元総合スポーツセンターを使用することになりました。

た。この間もお話しましたが、何らかの交流の機会を持てるように、今後代表チームであったり、国であったり、オリンピックの組織委員会等に働きかけを行っていくところです。

20 ページ、2020 大会を見据えてパラスポーツの体験コーナーを、10 月 14 日のスポーツフェスティバルで実施しました。途中から雨だったため、参加者が減ってしまいましたが、ゴールボールという競技とボート競技のシミュレーターをやったところ 228 人の参加者がありました。

21 ページです。今後の取組といたしましては、各地域スポーツクラブと連携したイベントとして、こやのエンジョイくらぶが 11 月 24 日、オール水元スポーツクラブが来年の 2 月 15 日に、それぞれフェスティバルを行います。トップアスリート事業として、例えば、こやのエンジョイくらぶではメダリストによるトークショーを、3 名とも水泳の選手ですが、村山よしみさん、宮下純一さん、星奈津美さんをお呼びして、オリンピックの魅力等を語っていただく予定です。

22 ページ、聖火リレーでございます。来年の 7 月 20 日に葛飾区を聖火リレーが通過します。こちらを契機としまして、区では前日、前夜祭という形でイベントの構想を練っています。区民の方に、多く参加していただいて、オリンピックが近づいているという機運醸成を図り、ぜひみんなで応援していただけるように取り組みたいと考えております。

23 ページ、パブリックビューイングです。今回のラグビーのワールドカップでも、パブリックビューイングが盛り上がっていると報告がありました。一緒に集まって応援するという事は、一体となるという気持ちも出てまいりますので、葛飾区にゆかりの方の競技が行われる際には、パブリックビューイングを行って、みんなで応援していきたいと考えています。この写真は、渡辺香生子さんがオリンピックに出たときのパブリックビューイングの写真です。

以上、資料について説明させていただきました。以前、小池都知事が、パラリンピックの成功なくしてオリンピック・パラリンピックの成功はない、という話をされていました。障害者スポーツにスポットが当たることで、区としても、一緒にできるスポーツということで取り組んでおります。一時的に盛り上がるのではなく、継続して応援できるよう、あるいは皆さんがスポーツに取り組んでもらえるように、事業を継続して実施していきたいと考えております。

○大島議長 ありがとうございます。委員の皆様からご質問やご感想を伺いたいと思います。

先ほどのポッチャというのは、転がりにくい玉のようなものですね。

○生涯スポーツ課長 はい。革製の、合皮なのかわかりませんが、重さは 1 キロから 2 キロ位か…。

○生涯スポーツ課事業係長 それほどはないかも知れません。

○大島議長 どちらかという当てにいくという感じ……。

○生涯学習課長 お手玉を投げているようなイメージはですね。

○生涯スポーツ課事業係長 アスリートによっては、硬い球と柔らかい球とを使い分けて、硬い球だと転がして撥ねさせる、柔らかい球だと落とすような、そういう戦略もあるようです。

○鈴木委員 何種類か使っているのですね。

○生涯スポーツ課事業係長 そうですね、はい。

○大島議長 体験してみると、いいのかも知れないですね。ありがとうございます。

- 長峰委員 ボッチャを、ずっとさせていただいておりました。見るよりも参加していただくと楽しさがわかっていただけだと思います。どなたでも活躍できることがボッチャの楽しいところです。
- 鈴木委員 ボッチャは室内競技ですか、外でもやられるのですか。
- 生涯スポーツ課長 基本は室内です。ただ、5月の子どもまつりでは、ベニア合板で平らにして簡易のフロアをつくって屋外でやったこともありました。
- 生涯スポーツ課事業係長 おおよそバドミントンコートの広さのコートでやります。
- 生涯スポーツ課長 用具の貸出しもしていますし、ぜひ広げていきたいと思います。
- 鈴木委員 このパブリックビューイングはどこで行ったのですか。
- 生涯スポーツ課事業係長 8年前、ロンドンオリンピックに渡辺選手が出られたときに、渡辺選手の地元、堀切地区センターで行いました。4年前は、エイトホールでやりました。
- 大島議長 今のお話にかかわりますが、パブリックビューイングのやり方には、制限があったようなことを報道で聞きました。
- 生涯スポーツ課長 著作権の問題で、手続きが煩雑になります。
- 大島議長 熊谷先生に伺いたいのですが、今のトップアスリートと認定されている方々は、例えば、区内の公立の学校の出身者である方が学校に指導に来られるのでしょうか。
- 生涯スポーツ課長 区内出身はあります。例えば、奥戸中学校の出身の方もいらっしゃいます。
- 大島議長 そうすると、その方の母校でやりたくてというところと、そのパブリックビューイングの制限がどんな感じになるのかを知りたいと思います。
- 生涯スポーツ課長 会場についての制限は、特にないかと思います。この競技についてパブリックビューイングをやりたいという申請を出していくことになります。
- 生涯スポーツ課事業係長 組織委員会が、その辺をまとめてやってくれるので、組織委員会を通していろいろ審査を受けながら進めていく予定です。
- 大島議長 学校の宣伝になるという話を聞いた覚えがあったので。質問のほうはわかりました。
- 竹高委員 渡辺さんが堀切小学校の出身でしたが、その後私立に行かれたので、学校ではなく地域の方、昔からの同級生、そういう子が集まれるので堀切地区センターでやりました。
- ただ、時差があり、真夜中だったので、20歳以下の子は来られないという制約はあります。
- 大島議長 そうすると、平日昼間だと、学校はみんなで見ようというようにできるのでしょうか。
- 生涯スポーツ課長 そうですね。パブリックビューイングのような扱いではなく、出身学校の生徒が集まって、一つのテレビをみんなで見ようか、というのは考えられると思います。
- 竹高委員 お昼に給食を食べながら、ということならあり得るかも知れません。
- 生涯スポーツ課長 時差や、いろいろな問題もあります。
- 生涯スポーツ課事業係長 開催時期は夏休み期間中ですね。
- 大畑委員 パラリンピックの期間に、学校は見に行けるのですよね。
- 生涯スポーツ課長 まだ誰が何の競技かはあれですが、見に行きましょうということで。
- 竹高委員 何かしらは見に行けるのですね。
- 熊谷委員 東京都が、子どもの分のチケットを用意してくれまして、葛飾区は幼小中全員が、希

望を出して、各学校でいつ何を見に行くかはすでに決まっています。

○竹高委員 そうなのですね。

○野川副議長 そうするとマラソンは入っていないわけですね。

○竹高委員 マラソンにチケットは要らないのではないのでしょうか。

○生涯スポーツ課長 競技場もあります。スタートとゴールは。

○竹高委員 スタジアムの中ですね。

○大畑委員 障害者スポーツですが、オール水元スポーツクラブが近くにあるので、事業をやっているところを見ておりますが、なかなか参加者集めが難しいですよね。トランポリンに関しては、学校単位で募集してくれているのですが、ボッチャは会議を何回もやるのですが、障害者への呼びかけが非常に難しいです。

○生涯スポーツ課長 確かに、障害者の方は、介助が必要な方もいらっしゃいますので、出てきてもらうということが、ハードルなのは確かです。恐らく保護者も同じような悩みを持っていたりするので、そういう活動に出てきてもらって一緒に話をしてもらう場とか、あるいは指導員さん、あるいは障害者の方のサポートをしている方がそういう場になれば、相談もできたりすると思います。できれば、ただ単に障害者スポーツというだけじゃなくて、スポーツをしながら支えられるような場になってもいいのかなと考えています。

○大畑委員 水元小合学園の第1体育室にボッチャのコートができています。ですからそこへ行けばすぐできる状態です。あそこは地域開放をしている場所でもあります。地域の人を集めるのには、どうしても土曜日、日曜日になってしまい、子どもたちがいない時間にやるようになってしまうために、なかなか出てこられない。その時間が調整できて、子どもたちの時間、体育でも何でも構いませんが、一緒に地域の人を入れる機会がつかれると、幾らかは広がりができるのかなと思います。来てください、と言っても、なかなか出てきてもらえないのが現状ではないかと思います。

○生涯スポーツ課長 平日だと、やはり地域の方も集まりづらいようです。

○大畑委員 それでも2、3人でも、先生以外の人が入ることで、交わることは可能です。顔見知りになっていくということから、参加に結びつけることはできるかと思います。学校の時間外に先生を連れてきて、とはなかなか言えないので、オープンな関係にしてもらえると……。

○生涯スポーツ課長 ボッチャを通じて、水元小合学園との接点ができるといいですね。

○大畑委員 水元特別支援学校の工事をしていますが、あそこができると体育館などの施設ができると思います。そういう場所で、そちらは……。

○生涯スポーツ課長 いろいろ活動の場とさせていただけると、ありがたいです。

○大畑委員 こちらが入っていかないと、来てもらうのはなかなか難しいという気がします。

○大島議長 その他、いかがでしょうか。

○大畑委員 2番目の表であった、参加者が70代以上の女性が多いという感じの稼働率は、何かわかるような気がします。仕事をやっている人が入るスポーツというのは、水元総合スポーツセンターの体育館を見ていると、トレーニングルームでは、若い人や中年ぐらいの人が結構やっています。競技としてのスポーツで入ってくる人は、あまりいないような感じがします。決まったときにやる

事業になってしまうので、やはり高齢者の率はどうしても多くなりますよね。

○生涯スポーツ課長 午前中は、グラウンドゴルフで結構多くの方に利用いただいております。

○大畑委員 水元総合スポーツセンターの広場は、老人会に午前中貸し出していますよね。

○生涯スポーツ課長 ほぼそういう状態ですよね。

○大畑委員 グラウンドゴルフを公園で練習していても、やはりあの広い場所でやる機会はなかなかなくて、それに誘われて老人会に入っているという話も、何人かから聞いたことがあります。それも一つのきっかけになっています。

○生涯スポーツ課長 非常に良いことかなと思っています。多目的広場は、午前中はなかなか使われない。逆にそうやって使っていただいたほうが、施設としては好ましいと捉えています。

○大島議長 9ページの区民健康スポーツ参加促進事業、体協には39種目あって、事業は29ということですが、39全部になるようなことは、なかなかないということでしょうか。

○生涯スポーツ課長 全ての団体で取り組んでもらえるように働きかけております。来年度、また増える予定です。今年度が29で、最終的には体協加盟39種目の事業が実施できるように目指しています。

○生涯スポーツ課事業係長 来年は35に増えます。

○大島議長 競技によってはそういうのがあるのかなというのと。先ほどの大畑委員の言葉ではっと思いました。競技スポーツ以外のスポーツは、ここだと入らないのでしょうか。

○生涯スポーツ課事業係長 そういうことではないです。フォークダンス連盟も、初心者の方に入ってもらうために教室をやってもらったりしております。

○大島議長 それはここに入るということですね。

○生涯スポーツ課事業係長 はい。

○野川副議長 フォークダンス連盟も、高齢化で大変なのではないですか。

○生涯スポーツ課事業係長 そうですね。

○野川副議長 ほとんど男性が入らなくて。フォークダンスは、いろいろなダンスがあって大同団結できないのでしょうか。

○生涯スポーツ課長 一般的なソーシャルダンスはできます。

○野川副議長 日本舞踊も、64年の東京オリンピックのときのあの踊りをやっているような団体の人たちも、若い人が入ってこなくて悩んでいます。ダンス系は、ヒップホップなどは、若い子たちだけになってしまいますか。よさこいやヒップホップは非常に集客力があるようです。それと高齢者のいろいろなダンスを、一緒にできないかなと思います。実はフォークダンスは、いわゆる国際交流みたいじゃないですか。自分たちだけ、というように区切ってしまうのは、先細ってしまうと思います。

○大畑委員 うちの方は盆踊りが結構盛んで、町会の祭り8か所を回らないといけません。それらを見ていると徐々に変わってきたのが曲ですね。新しい曲を取り入れるようになってきています。これが盆踊りになるの？というような曲が流れています。

○竹高委員 「スカイツリー音頭」とか、「ダンシングヒーロー音頭」とか。

○大畑委員 そういう曲の変化をつけるなどして、若い人も入れる環境があれば、若い人も入っていくのだと思います。やはり昔からの踊りでは、若い人はなかなか入っていけない。

○野川副議長 10年ぐらい前に、日本レクリエーション協会が「スポーツ種目のシニア化」ということを言いました。参加者がどんどんシニアになっていくと、後から入ってくる人がいなくなって、立ち枯れになってしまう。外圧でやらない限り、多分変わらないと思います。

一番若い人が七十幾つ、と言われてしまうと、ちょっと辛いですね。

○大畑委員 自分たちが今入っているのがグラウンドゴルフなのですが、若い人はあまりやっていません。うちの周りは特にそうです。

○生涯スポーツ課長 連盟に加入している方の平均年齢が70歳を超えている状況です。

○野川副議長 その前はゲートボールがあったようです。ゲートボールがどんどんシニア化して行って、スーパーシニアになってしまって、今度グラウンドゴルフが、やはりシニア化しています。ゴルフもボーリングもシニア化しています。どんどんシニア化が起こっていくということで、業界自体も非常に困っています。そういうのを含めて、日常できるようなものということで考えていくと、もうちょっと何かできないかなとは思っています。

○生涯スポーツ課長 各連盟が、参加促進事業のジュニアの取組をしています。ただ、フォークダンスなどには、若い子は集まりづらいという気はします。

○野川副議長 僕らが中学生のときに、胸がドキドキしながらやっていたよね。

○長峰委員 亀有まつりが先日ありました。亀有では小学校が3校ありますが、3校全部が、その亀有踊りに参加をしてくれています。大人の人ももちろん踊っています。「東京五輪 2020」という曲があるのですか、それを踊った上で「亀有音頭」をみんなで踊って、街中を練り歩いてというお祭りです。その小学生が育って、地元に戻って、踊ってくれるようなればと考えております。

○野川副議長 東京国体が6年前にありましたよね。あのときのダンス、何だったか覚えていますか。

○生涯スポーツ課事業係長 「ゆりーとダンス」ですね。

○野川副議長 「ゆりーとダンス」、やったことありますか。それから「新東京体操」というのもやった。

○竹高委員 着ぐるみが来て、踊って教えてくれても、なかなかそれは……。

○生涯スポーツ課長 根づかなかったと。

○野川副議長 覚えられないのですよね。

○竹高委員 踊る機会が無いわけです。例えば、何かの大会の準備体操のときにその踊りをして、学校に持ち帰ってやるとか、地域の盆踊りでやるとか、そういう機会が無いわけですね。そうすると、やっぱり浸透はしないですね。

○野川副議長 地域興し用に、どんなご当地ソングとご当地ダンスがあるかを、健康・体力づくり事業財団が調べました。全国で660ぐらいあったそうです。しかし、それが本当にどのぐらい浸透力があるかはわかりません。

○竹高委員 昔で言うと、「ドラえもん音頭」などは、大人から子どもまで、みんなで踊ったじゃな

いですか、それぐらいの知名度のある曲ならば。

○野川副議長 「ダンシングヒーロー」と一緒だね。そうすると、「スリラー」ですね。

○竹高委員 それを盆踊りにするのは……。

○鈴木委員 阿波踊りがすごい人気で、高円寺まで見に行きました。あそこにはいろいろな地区から出ていて、松戸とか。葛飾区のグループがあったかどうか分かりませんが。子どもも大人もすごいノリで。腕をずっと上げっ放しで、爪先で歩いて、ああいう練り歩くというのは、何かみんな好きみたいなので、盆踊りもぐるぐる回ってないで、練り歩いちゃえばいいのではないのでしょうか。

○野川副議長 それと、コスチュームだと思います。

○竹高委員 堀切菖蒲まつりの阿波踊り、規模が年々縮小化はされていますが、堀切小学校の児童たちも出ますし、それ以外にもいろいろ地域の方たちが何チームも集まってきて。駅前を通行止めにしてやるのですが、すごく盛り上がって、パレードのような形にすることもあります。

○鈴木委員 盆祭りはどうでしょうか。

○竹高委員 盆祭りは、区長が率先して踊られていました。ずっと踊っていらしたようです。

○野川副議長 有酸素運動として、すごくいいと思います。長く踊れるし、手を動かす、柔軟性、そういうのも含めて盆ダンス、フォークダンスなど、いろいろやることは体にとってもいいということですか。触れ合えるようなチャンスというか、グループになれるとか、ダンスはすごくおもしろいものを持っているはずです。それが、ただ自分たちだけで、自分たちの踊りだけになってしまっている。それを何とかするのは、体協でしょうか。

○生涯スポーツ課長 外的刺激を加えることも必要かもしれません。

○大島議長 今のお話を聞いていて、やる本人も楽しいのと、見てもらうことが楽しいというのは、要素だなと思いました。競技スポーツは、コートとかいろいろ固定されてしまうけれど、何かすごい広がりを持ちそうだなというのは感じました。

○野川副議長 学芸会的な要素があるので、みんな練習するのですよね。よさこいも、普段だったら絶対に運動しないタイプの人が、何度も何度も自分が上手に見えるようにやっていますよね。だから学芸会的なものを上手に入れながらやっていくと。走れ、とか歩け、ではなくて、いわゆるフェスみたいな形で、やるといいと思うし、子どもはヒップホップで大人は云々だというのはなく、親子でやらないといけないとか、三世代で出ないといけないようにルール化すればいいと思います。ルールは柔軟に考えればいいのだから。そういうふうにしていかないと、頑張りましょうというメンバーしか来ないですよ。結局、固定化してしまう。

○大畑委員 よさこいは運動会の中での演技の一つで出てきますよね。5年生が中心でやっていますが、5年生にとっていいものでも、終わると、もうやる機会がないからやらなくなってしまふ。せっかく覚えたことを生かすのであれば、区で大会みたいなのをやれば、自由参加チームで何名以上ということで集めると、継続性が多少出るのかなと思います。

○野川副議長 校長先生からすると、いかがでしょうか。

○熊谷委員 やりたい子とやりたくない子がはっきり二極化している現状はあります。やりたい子は汗をかきたい。汗をだらだらかきながらやるダンスを求めている、曲も含めて格好いいねと言わ

れるものを求めている。やりたがらない子は、そういうのにはついていられない。

○野川副議長 汗は嫌だと。

○熊谷委員 そうですね。運動会では、その中間ぐらいを目指す、抑えているのです。全員参加はそのときだけで、やっぱり両極端になっていくのかなと。

○野川副議長 やらない側の子はe-sportsですか。

○熊谷委員 それも実態としてはあります。

○野川副議長 この間、茨城国体で、今回、文化プログラムで初めてやっていたので、見に行きました。「ぷよぷよ」というゲームを対一でやる。それから、鈴鹿サーキットに行くやつは、二人一組でずっとやっています。あとはサッカーの「ウイニングイレブン」、あれは4、5人ぐらいでやるようです。3人が座っていて、残りの2人は指示を出す。体はそんなに動いてなくても、それなりの盛り上がりですね。

○熊谷委員 作戦があつて、4人なり3人なりのチームで戦うというのは、彼らにとってはすごく大きな楽しみであると思うので、一人でやるのとは違う。何にしてもそうですね。

○野川副議長 それを、だから認める、といったら違うのかもしれませんが。

サッカーは、ああいうふうな形でやって、アメリカンフットボールとか野球は、攻めるときと守るときではっきり分かれるじゃないですか。多分ゲームとしては、さらにやりやすいわけですよ。バスケットボールやサッカーのように、ボールがとられたら、また攻撃とか何とかとなると、すごく複雑だと思います。それはそれで言葉も覚えるし、ルールも覚えるし、裏技も覚えるし、それが本当にいけないのかなって言われると、何とも言いようがないですよ、実は。

○大島議長 チームで、というのは、共同して課題の解決に取り組む学びということにつながる。

○野川副議長 学びですよ。

## イ 生涯学習課

○大島議長 求められていることに対して、その手段が何かということをつけかえていけばと思います。今この柱はスポーツですが、せっかく社会教育委員の会議でという話では、文化プログラムなど、もっと多様に幅が広がる話になったらいいなと思いますね。

その多様性の話に、そろそろ移らせていただいてよろしいでしょうか。

まずは生涯スポーツ課さん、どうもありがとうございました。では続けて、生涯学習課からの報告をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○生涯学習課社会教育主事 生涯学習課の今年度のオリンピック・パラリンピック関連の事業をご説明いたします。

前回、資料でお配りした、かつしか区民大学の特別講座、郷土と天文の博物館の「オリンピック・パラリンピックと葛飾」の展示を中心に説明していきたいと思います。

かつしか区民大学では、「スペシャリストから学ぶかつしか区民大学夏の特別講座」ということで、4つの講座を実施しました。そのうちの第3弾、第4弾がパラリンピック、パラスポーツに関連す

るものでした。1、2、3はアスリートを支える側の、4はロービジョンフットサルということで、パラスポーツの選手に来ていただきました。

前回お配りした資料3に、参加者数を記載しております。一流の講師に来ていただけ、なかなか好評で、来年のオリンピック・パラリンピックが楽しみになりました、というような感想もいただいています。機運の醸成にはつながったかなと思っています。

特に体験型で、3番のスポーツ義足の体験をしたり、4番の弱視ゴーグルを使用して実際にフットサルを体験したり、体験しながら学ぶことを織りまぜてやりました。

博物館の取組ですが、令和元年度特別展「オリンピック・パラリンピックと葛飾」を実施しました。展示期間は7月20日から9月1日で、第一会場、第二会場がありましたが、第一会場はオリンピックの歴史の展示、1964年の東京大会の葛飾の状況の展示。おもしろかったのは葛飾区の当時の取組みで、「ハエ、蚊がいない葛飾のまちに」を目標にして、みんなで美化に取り組んだというようなことが、写真とともに展示されていました。4番目、聖火リレーです。5ページ目に地図がありますが、23区の中でたまたま葛飾区は割と長い距離を聖火が走ったということで、その当時のランナー、4人の方が名乗り出てくれて、その方々の当時の写真も展示されていました。夏休み期間に行われたので、その方のお孫さん、お子さんたちも、大分見に来てくれて、この道が今はこの道になっているのだ、という聖火の道の展示がされていました。他に、幻の1940年東京大会、これは日中戦争によって、オリンピックを辞退したということで、平和の大切さも展示されていました。

第二会場の1階は体験的な展示が主でした。体力比べということで握力計があり、選手と比べてみる体験がありました。他には、絵馬です。シールの絵馬で、いろいろな願い事を貼っていました。当時のトーチの模型を持って、聖火ランナーになる、当時の写真の中に入って写真を撮れるようなコーナーは、かなり好評だったということです。廊下には陸上のコースがあり、クラウチングスタートの格好で写真を撮れるとか、そういう体験型の展示が好評だったということです。

期間中の来場者は、約6,200人でした。

私の印象に残ったのが、後藤忠治さんの展示です。後藤さんは64年のオリンピックのときのオリンピックアンで、葛飾区の方でした。その方が、その後どうなったかという、セントラルスポーツを創業され、人々の健康づくりのためのスポーツ事業をされたということです。

この企画展は、オリンピック・パラリンピックの機運醸成につながったと博物館職員も言っております。

また、博物館では、前回、チラシをお渡ししたと思いますが、こちらはプラネタリウムで、「クイズ!スター&プラネット」というクイズ形式の夏の番組で、オリンピック関係のクイズを出しておりました。

生涯学習課の事業ではありませんが、シンフォニーヒルズで、11月9日、10日に国際交流まつりが行われます。そこで文化協会によって、日本文化の紹介、茶道の紹介を行うと聞いております。

生涯学習課の関連事業は、以上になります。

**○大島議長** ありがとうございます。皆さんからのご質問やご感想をお聞きしたいと思います。

よろしいですか。先ほど一覧で見せていただいたかつしか区民大学の講座ですが、ここには区民

の方の企画講座もあろうかと思えます。これは生涯学習課が企画されたものでしょうか。

○生涯学習課長 そうです。4つともそうです。

○大島議長 わかりました。ありがとうございます。

○生涯学習課長 区民運営委員は今年改選になりました。今、様々な企画を練っていて、今年の後半ぐらいから区民運営委員さんの企画講座が始まるところです。

○大島議長 ありがとうございます。かつて区民運営委員をさせていただいていたので、一緒に講座つくらせていただいて、何かそういうところから出てきそうでしょうか。

○生涯学習課長 今のところ、オリンピック関連の講座は出てきていません。

○鈴木委員 ボルダリングの施設の話は出ています。ただ、使えるのはいつなのか、オリンピックもありますので、後なのかなというのはあります。はっきりいつというのが決まっていないようなので……。

○大島議長 先ほどの写真を見ていたら、疑問が湧いてしまいました。スピードの写真を見ると、壁にも座席がありますが、全体のイメージ図だと、壁には椅子が配置されていないようです。3方向から、椅子が並んでないといけないのではないのでしょうか。また、広い空間なので、子どもが侵入してしまうなどのセキュリティーの問題が気になりました。

○生涯スポーツ課長 この写真は大会実施時ということで、椅子、テントなどをこのように配置していきますというものです。ただ、スピードのほうで椅子がありながら、この右下のところでない、ということがあって、イメージ図なもので、正確ではありません。

○大島議長 これは可動式なのですか。

○生涯スポーツ課長 はい。可動式というか、普段はボルダリング棟とクライミング棟があり、右下の白いのは、後で大会のときに会場設営するというようなイメージです。普段は、建物とクライミング棟の周辺に高さ2メートル程度の柵を設け、侵入防止を図っていくところです。大会時には、柵を取り外すことができますので、このようなレイアウトで座席なりテントなりを配置していくと。

○大島議長 いたずら心だと、2メートルはどうなのでしょう。

○生涯スポーツ課長 柵の他に、防犯カメラ、赤外センサーなどの警備、それにひっかかれればすぐに、約20分弱で警備の方が来る。ある程度の高さまではシートを張って、物理的に登れないようにしてしまう。ホールドに手をかけては登れない、そのようないたずら防止、防犯を考えております。

○大島議長 ありがとうございます。

○鈴木委員 これができましたら、お祝いで有名な方を呼ぶとかいう企画はありますか。

○生涯スポーツ課長 そういう形で考えています。たとえば、平山雄二さんというお名前が上がっています。また、大規模な国内の大会とかの誘致なども、考えているところです。

○大島議長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○熊谷委員 質問です。学校もオリパラ教育は、数年前からやってきて、かつしか区民大学のような形の講座をやっていますが、例えば、1、2回は162人、123人と参加していただいているようですが、どういう年齢層で、どういう方が参加しているのか、3番目の23人というのは、前回と比べると低いのかなと思えますが、これはなぜなのでしょう。

○生涯学習課長 年齢層は、20代の方も散見されますが、やはり中高年の方が多いです。男女比は同じぐらいです。3番がなぜ少ないかというと、会場のキャパシティの問題もありますが、スポーツ義足の体験は実際に歩くので、椅子をたくさん置くわけにもいかず、50人ほどの定員しか考えていなかったところ、実際の応募も少なかったです。

○大島議長 そうすると区民大学は比較的年齢の高い方の参加が多く、学校は子どもたち、その真ん中の若い社会人は、いろいろな催しに出会う機会は少ないのでしょうか。

○生涯学習課長 少ないです。先ほどいろんな種目を一緒にしてやったらいいのでは、というお話がありました。今、区民文化祭の月間で、先週の日曜日にフリーステージという、文化協会に属さない人、民舞でもない、謡曲でもない、民謡でもない、何でも好きなのをやってくださいという場があります。チアダンス、バトン、フラダンスのチーム数が多く、朗読、ハーモニカといろいろな演目があっても、子どもかお年寄りです。現役世代の方が参加されるというのはやはり稀です。土日や夜間の講座をやっても、そういう傾向は見受けられます。

生涯学習課では「学びの循環」の輪をつくりたいと思いますが、現役世代の方に、本当は参加していただきたいとも、恐らく難しいだろうなと思います。子どもさんはきっかけづくりのような目的で、年配の方には生きがいづくりとして参加していただいているので、一定の成果は上がっているのかなと思っていますが、現役世代をどうするかというのは長年の課題です。

○大島議長 ありがとうございます。行政としても、やりたいけれど、なかなかそこだけをターゲットにはしにくいという……。

○生涯学習課長 現実的には大きな期待は寄せられないかと思います。

○大島議長 その辺は、スポーツは違いがあるのですか。

○生涯スポーツ課長 日ごろからスポーツをされている方は、やはり70代が一番高く、次が60代、働き世代については、日常からスポーツを親しんでいる方というのは低い傾向にあります。事業でも同じで、ジュニアや高齢者は、そこそこ来ますが、成人をターゲットにしたものは、そもそも事業としてはどうかというのはあるのですが、成人男性が来るというのは少ないです。

○大島議長 でも、人生の中で、いろいろとやれるタイミングだとは思いますが。

○生涯スポーツ課長 子どものころからやっているスポーツを、大人になっても趣味で続けていることはあると思います。働いている中で、新たに土曜、日曜に始めようかというのは、ハードルが高いのかなと思います。

○生涯学習課長 スポーツも、私どもの学びもそうですが、現役世代が始めようと思うと、カルチャースクールやスポーツジムに流れるのかなと思います。団体を組むよりも、個人主義というのがある。ゲートボールからグラウンドゴルフに流れていくような流れだとは思いますが。

○野川副議長 少子化ということもありますし、働き世代は、チームを組んで何かやろうとするということ自体が難しいですから。だから練習をして何かするところまでは無理ですが、それでもフットサルは人気があります。スリー・バイ・スリーも、多分集まると思います。あとはストリート系でやるものであれば、最近体操とジョギングと何かを組み合わせたような、障害物をあちこち行くようなサスケチックなものも、その年代層というのは集まると思います。それでお互いに

達成感のあるもの、そして2人や3人ぐらいですぐできる、あとは多分時間帯と告知の方法かもしれないですね。

せっかくこういう施設ができたなら、スポーツフロアを敷いてしまえば、すぐバスケットボールのコートにもなる、フットサルができる、いろいろなことができるようにしておく、スポーツバイキング的なやり方かもしれませんが、そうすると、ターゲットはぐっと若くなるかなと思います。

学校体育からすると、正課体育にないものはなかなか出せないですね。教える人間はいるのかとか、安全性だとか。その辺のところは、大人はできると思うので、やはり種目とは思いますね。スリー・バイ・スリーができるところがないのです、実は。

**○鈴木委員** 葛飾区の立派な施設は、ちょっと駅から離れていて、行きたいと思っても、ご近所の自転車で行けるような方がすごくうらやましいと思います。奥戸も大変な、川を渡るとか自転車で行って大変ですが、水元はこの前行ったらとても良くて、私は金町なので行きたいと思います。

団地を見ても、ちょっとしたバスケットを子どもがやっていますが、気軽にできる場所があまりないなと思います。駅の近くであれば、会社帰りでもちょっと寄ってできますけど、あそこまで行くとなると、気合いを入れないとちょっと無理です。

**○大畑委員** 施設があっても、フリーに使えるという場所ではないですから、時間をつくるのは大変だと思います。5人、10人として、スペースをおさえる仕事を誰がやるの、ということになります。

うちの近所に、中学時代にやっていたバスケのグループが、今四十幾つかになっていますが、誰が場所をとるかという問題はあるようです。今インターネットでとれるので、比較的入りやすくなったらしいです。でも、地元の学校の施設開放はいっぱい、なかなか入れない。亀有へ行ってみたり、あちこち行ってみたり、それぞれみんなが分かれてとって、その場所に行くということでやっているらしいです。面倒見がいいグループじゃないと、維持できない。

**○野川副議長** マネジャーが必要なのですね。

**○大畑委員** みんな働いていると、スケジュールを組んだり、場所をとったり、そういうことがしにくいかなと。だから、1人、2人でどこでも参加できるようなスポーツを広げないと、競技性のものに関しては現実的に難しいのかなという感じはします。

オール水元でやっているのを見ていて、やっぱり高齢者が多いのは、自分の時間をいつでも使える、その時間でたまたま健康体操をやっていたら、吹矢をやっていた。カードのこれをやっていた、新しいゲーム、新しい種目に入っていかうかなということで広がっているのかな。

最初、あそこにスポーツクラブを出したときに、会費を払ってスポーツをするということに、すごく抵抗がありました。高齢者ですから、健康体操というと、区が講師を呼んで、みんなやって、年に1回か2回やっておしまい。スポーツクラブとして運営すると、月に1,500円とられて、お金を払ってスポーツをやるという習慣がなかったですから。でも最近は、それが当たり前になるようになってきて、逆に、かえっていろんなものに出いけるという。それは、自分の時間があるから。

働き盛りの人にお勧めでも、行く時間ないよということになってしまいますよね。そこに入るからいろんなスポーツをできても、行く時間がないよということで、入っていけない。

○鈴木委員 熊谷委員に質問です。学校の体育館を借りるのはとても難しいのでしょうか。ママさんバレーをやっているのは知ってはいますが、借りることは可能でしょうか。

○熊谷委員 基本的に部活動が終わった後の、例えば7時ぐらいから施設開放で使っていただいています。ほぼ継続している団体にずっと長い間使っていただいているという状況で、そこに新規参入するというのは、非常に難しいという話は聞くことはあります。

○鈴木委員 それは学校に直接お願いするのでしょうか。

○熊谷委員 我々は、もう全然関知してないです。

○竹高委員 センターというか、届け出を出しに行く場所があって、調整会議というのが1月に1回あって、そこで決めるのですね。

○鈴木委員 駅から離れてない小・中学校もあるので、空いているなら行きやすいと思いました。

○熊谷委員 ほぼどこの学校も、夜は体育館を使っていると思います。

○大畑委員 ほぼ80%以上、埋まっているのではないのでしょうか。

○生涯スポーツ課長 もう夜は100%に近いと思います。

○大畑委員 比較的空くとすると、日曜日の夜かと。

○大島議長 お話を聞いていると、新しいことを習慣化できれば、スポーツもできるのだろうなと思います。しかし、もう既にあるものが壁になっていて、新しくそれを自分の生活の一部にすることは、難しさがあるのだなと感じます。でもやはり習慣になったらいいなどは、どこかで思います。

○大畑委員 一つは、以前あった、スポーツクラブを7地区につくろうよというイメージ、これを広げられれば、その近くの方々が、また加入する可能性があって。水元に新小岩の人が来るというのはなかなかあり得ない。だから7地区にでき上がってくると、スポーツを今より習慣的にやれるという人が出てくるかなという感じがします。

○野川副議長 調整会議という話がありましたが、調整会議で抽選はやらないですよ。なかなか新規が入ってこられない。シェアという感覚がないから、全部自分たちで使ってしまうおもうとします。今は共有、共生というか、シェアしていかないといけないから、あまり長い時間ではなく、短い時間の単位でやっていくようにしないといけないと思います。

運動部も同じで、朝練、昼練、夜練とやるということがあります。そんなにやっても東京都の大会に出られないようなことがあり、もっと効率的、効果的な指導方法があるのではないかと思います。週3日でも国体に出るようなチームがある一方、毎日やっても出られない。スポーツ科学、効果的なものを、効率的に追及するのが科学です。それがなくただ練習だけ、根性だけでやっている、昔とあまり変わっていない。その辺も含めて、短い時間で、シェアをしながらやるということを当たり前にしていかないと、新しいものが入ってこられないし、変化していかないと。思います。

○大畑委員 施設開放、学校などを使っているメンバーの様子を見てみますと、確かに競技をやっているにしても、競技性よりもサークル的なイメージが強いように見えます。6時半から9時まで使えるので、7時ぐらいから集まっておしゃべりしながら練習している。練習が一つのサークルの核であって、実質はいろんな話をしているということも、結構見受けられます。やはり2時間なり何なりのスパンで過ごすことが、自分の息抜きの場として集まっているような感じがします。

○野川副議長 クラブライフ的にやるのと、スポーツライフ的にやるのをどうするのだということが、実はあるのですよね。スポーツライフをやるために総合型地域スポーツクラブという人もいる一方で、いや、あれはクラブライフだよという人もいます。大畑委員がおっしゃたように、クラブライフであって、スポーツだけで、練習をやって、ぱっと帰るのではなく、クラブのメンバーとの横のつながりとか。でもそれは、体育館でやらなくてもいいわけですよね、実は。スポーツライフとクラブライフを上手にコントロールしてあげないと、6時半から使って8時で帰りたい人もいると思うし、逆の人たちもいると思うし。では、誰がどう旗を振るかですよね。品川区でも、大きな問題になっています。1回調整会議で入れると、あとは5年間はやれるとか、臆面なく言う人たちがいます。施設も時間も全部限られている中だから、シェアをいかにさせるかですよ。人もそうですよね、それはもうルール化しないとイケません。

○大島議長 新規参入のための細切れ化というのは、すごくいいなと思います。

○野川副議長 どうしても体育スポーツ系は、声が大きくて、力が強い人が幅を利かす。それがずっと続いています、いつかどこかで打破しないと。

○大島議長 声小さくてという人間が、羨ましそうに覗いているときに、機会が細切れになれば、隙を突いて入ることが可能だなと思います。そして、隙間に入ったら、自分らもそこで横並びになって、そこからということも可能だなとは思いました。

私は、部活が吹奏楽部でした。でも定時制がある学校だったので、週6でやりましたけど、5時までで終わりでした。部活動中は必死にやるけど、5時以降は練習じゃなくて別の楽しみをやれたなというのを、今聞いていて思いました。頑張るけど無限の努力じゃないよ、という、それは大きな提案のヒントになるのではないかと思います。しっかり区切りをつけて、隙を突いて、新しい人が参入する、あるいは拘束もし過ぎないという言い方もできるのではないかと思います。

○大畑委員 水元体育館は1枠2時間でしょう。日曜日は、幾つもサークルが入っていますよね。

○生涯スポーツ課長 そうですね。日曜日ですと、どうしても大会がメインになってくるので、結構長い時間を使われるようになってしまいますね。

○大畑委員 平日夜は、早くすると2つぐらい使えるのでしょうか。

○生涯スポーツ課事業係長 夜は1コマです。

○大島議長 皆さんそれぞれの経験が重なっていく感じがしたので、非常に楽しみだと感じました。

だんだん時間が迫ってきました。一通りよろしいでしょうか。

○野川副議長 東京オリパラのボランティアは、生涯スポーツ課さんで対応ですか。

○生涯スポーツ課長 東京都レベルで募集していて、各区レベルではやっていないです。

○野川副議長 葛飾区からは何人ぐらい。

○生涯スポーツ課長 全然そういう情報もないですね。

○野川副議長 大田区では八百何人の応募があったそうです。それで東京都に行くのと、大田区だけでもやるというのがあって。ただ、スクリーニング、トレーニングをやって、その次のステージに行くような教育プログラムでやっておかないと、終わると全部いなくなってしまうのですよね。生涯学習という観点からは、いいチャンスだと思います。いろいろな人を引っ張り出すというか、

水面下から出てきたのを上手に引き上げると、その周りにもずるずると出てくるから。

○生涯スポーツ課長 東京オリンピックとはまた別に、区の事業で手伝っていただくスポーツボランティアは、講習会をやって、登録いただいております。

○野川副議長 それこそ社会教育の一環ですよ。

○大島議長 オリンピック・パラリンピックのボランティアは、募集されてないということですね。

○生涯スポーツ課長 今はしていません。

○野川副議長 葛飾区在住の長期滞在外国人の方で、入ってきてくれると、また別のベネフィットが出てくると思います。言葉も別に教わらなくても、中国語ができる、韓国語ができる、英語ができる、スペイン語ができるという人、自分の持っている資質を貢献できるので、オリンピック、パラリンピック、いろいろなもので上手にすくい上げて、社会教育という大きな枠で日本の伝統文化を知ってもらおうとか。日本語の言葉とか、治安とか、いろんなものでやっていけると、本当にいいのではないかと思います。在留外国人のことをどこかで入れていかないと、せっかくこういう機会があるのだから。スポーツの一番いい面は、言葉が要らないということです、一緒にできるから。

○事務局 スポーツボランティア養成講習が7月27日に行われたのですか。

○生涯スポーツ課事業係長 はい、やりました。20人ぐらいが参加されて、区の大きなイベントに参加していただく前に研修会をやりまして、ボランティアの楽しみ方だとか、基礎知識を学んでもらって、登録してもらって、イベントに協力いただくということをしておりまして、現在、3年目になりますが、250名ほど登録していただいております。

10月の体育の日のスポーツフェスティバルというイベントでも、その登録者の中から30名ほどお手伝いいただきながら運営をしました。

○大島議長 ありがとうございます。具体的な区の取組みが見え、皆さんの立ち位置からたくさんのご意見がいただけたと思います。これを続けていき、提言につなげていきたいと思っています。

## (2) 今後の会議日程

今後のスケジュールは次のとおり決定した。

ア 11月15日午後2時から、第6回会議を予定していたが、正副議長の会とする。

イ 12月20日午後2時から、本庁舎で第6回会議を開催する。

## (3) その他

○大島議長 3つ目のその他というところですけど、委員の皆様から何かございますか。

大畑委員、基本構想の策定委員会で何かございますか。

○大畑委員 今日までには動きはありませんでした。

○大島議長 では、また何かありましたら、よろしく願いいたします。

本日の議事は以上です。お疲れ様でした。  
— 閉会 —